- 1 日 時 令和6年6月12日(水)5校時(13:10~13:55)
- 2 場 所 体育館
- 3 単元名 とびばこあそび(器械・器具を使っての運動遊び領域 跳び箱を使った運動遊び)
- 4 授業づくりに関する考え方
 - (1) 子どもの実態と教材の特性

本学級(男子16名、女子14名)は、「元気いっ ぱい、思いやりいっぱい」を大切にして過ごしてい る。低学年のうちに多くの「できた!」「分かった!」 を経験させ、子どもたちの成長につなげたい。 新体力テストや運動会練習等の様子から、運動 能力差はあるものの、子どもそれぞれが力を伸ば そうと一生懸命に取り組む姿が見られている。 (知識及び技能) ○ 友達と協力しながら、運動遊びを行うことがで 材 ŧ きるよう取り組んでいる。友達の動きを見て、よ \mathcal{D} \mathcal{O} いところを伝えたり、励ましの言葉を掛けたりす 特 実 ることができるように日々取り組んでいる。 熊 (思考力、判断力、表現力等) ○ 体育科が好きな子どもが多く、意欲的に取り組 んでいる。5月に行われた運動会では、意欲をも って練習に取り組み、精一杯がんばる姿が見られ た。その中で、多様な視点から運動遊びを楽しむ ことができるようになってきている。 (学びに向かう力、人間性等)

跳び箱を使った運動遊びは、跳び箱 を使って跳び乗りや跳び下り、手を着 いてまたぎ乗りやまたぎ下りをして 跳び箱運動につながる動きを身に付け られる運動遊びである。跳び箱は、高 さや向きを変えたり、つなげて階段の ようにしたりするなど様々なすること あり、工夫して運動遊びをすることで 楽しさや喜びを感じることができると 言える。

本単元は、様々な動きにより、多くの運動感覚を養うことができる。場づくりを子ども主体で行い、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。また、友達と関わり合いながら事動遊びに取り組むことで、楽しさや喜びを味わいながら夢中になって運動遊びに取り組むことができると考える。

(2) 単元構想

ア 単元目標

○ 跳び箱遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり、またぎ乗りやまたぎ下りをしたりするなどして、遊ぶことができるようにする。

(知識及び技能)

○ 跳び箱を使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

○ 跳び箱遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

本単元で身に付けさせたい力の系統表

1 半 年	イ 本単元で身に付けさせたい力の糸統表				
学年 観点	低学年	中学年	高学年		
知識及び技能	○ 跳び箱遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり、またぎ乗りやまたぎ下りをしたりするなどして、遊ぶことができる。	○ 跳び箱運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を身に付けることができる。	○ 跳び箱運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができる。		
思考力、判断力、	○ 跳び箱を使った簡単な遊び方を工夫するとともに、 考えたことを友達に伝える ことができる。	○ 自己の能力に適した課題 を見付け、技ができるよう になるための活動を工夫す るとともに、考えたことを 友達に伝えることができる。	○ 自己の能力に適した課題の 解決の仕方や技の組み合わせ を工夫するとともに、自己や 仲間の考えたことを他者に伝 えることができる。		
学びに向かう力、	○ 跳び箱遊びに進んで取り 組み、順番やきまりを守り 誰とでも仲よく運動をした り、場や器械・器具の安全 に気を付けたりすることが できる。	○ 跳び箱運動に進んで取り 組み、きまりを守り誰とで も仲よく運動をしたり、友 達の考えを認めたり、場や 器械・器具の安全に気を付 けたりすることができる。	○ 跳び箱運動に積極的に取り 組み、約束を守り助け合って 運動をしたり、仲間の考えや 取組を認めたり、場や器械・ 器具の安全に気を配ったりす ることができる。		

友達と共に、夢中になって学習する愛顔あふれる子ども

友達との豊かな関わり合いを通して、跳び箱を使った運動遊びの楽しさやできる喜びを味わわせたい。また、跳び箱を使った運動遊びを多様に楽しむことを通して、他の運動遊びにも前向きに挑戦し、夢中になって取り組む子どもを育てたい。

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て

「教材とつながる」	「仲間とつながる」	「自分とつながる」
① 誰もが夢中になれる運動遊	② 友達と関わり合いながら学	③ 自らの学びに充実感を得さ
びにするために、自分たちが	習できるようにするために、	せるために、振り返りの充実
活動したい場づくりを考えさ	教具や学習形態を工夫する。	を図り、子どもが学習の目標
せる。また、運動遊びは多様		や締めくくりを「つくる」こ
な関わり方があることに気付		とができるようにする。
くことができるようにする。		

イ 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 跳び箱を使った運動遊びの	ア 跳び箱を使った運動遊びの	ア 運動遊びに進んで取り組も
行い方を知っている。	簡単な遊び方を選んでいる。	うとしている。
イ 跳び箱を使って跳び乗りや	イ 友達のよい動きを見付けた	イ 順番やきまりを守り誰とで
跳び下り、またぎ乗りやまた	り、考えたりしたことを友達	も仲よくしようとしている。
ぎ下りをするなどして遊ぶこ	に伝えている。	ウ 準備や片付けを友達と一緒
とができる。		にしようとしている。
		エ 場や器械・器具の安全に気
		を付けている。

ウ 単元における指導と評価の計画

時	学習の流れ	主 な 評 価		
		知・技	思・判・表	態
	楽しみながらいろいろな動きをして みよう。	ア (様態、ワークシート)		ア (様態、ワー クシート)
1	○ 単元の流れや約束事を確認した後、いろいろな感覚づくり運動を行う。 【視点①】			
	友達と楽しみながら運動しよう。		ア(様態)	イ (様態)
2	○ 感覚づくり運動を行った後、自分たちでつくった場で跳び箱を使った運動遊びを行う。【視点①、視点②】			
3	みんなで工夫して、みんなでもっと 楽しく運動しよう。	ア(様態)		ウ、エ(様態)
4	○ 自分たちでつくった場を改善したり、他のグループがつくった場で活動したりする。【視点①、視点②】	イ(様態)	ア(様態)	
5		イ(様態)	イ (様態、ワー クシート)	
6	グループの工夫を生かして、発表会 をしよう。		イ (様態、ワー クシート)	ア、エ(様態)
3	○ グループで考えた場での遊び方を発表し、振り返りをする。【視点③】			

- 5 本時の指導(6/6)
- (1) 目標
 - グループの友達と協力して、跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

- グループで考えた場での遊び方を発表し合うことを通して、他のグループの工夫に気付くことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (2) 準備物
 - 教 師 跳び箱 マット 踏み切り板 フラットマーカー ウォームアップ動画 プロジェクター
 - 子ども ワークシート タブレット
- (3) 展 開

(3) 展 開		
学習活動	教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	□ 指導上の留意点 ■ 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの 支援・配慮 ◎ 評価規準(方法)【観点】
1 ウォームアッ	楽しみながらウォームアップをしよう。	□ 音楽に合わせたウォームアップ動
プを行う。	・今日はどんなことをするのかな。	画を活用することで、楽しい雰囲気
	・楽しく発表したいな。	で授業を始められるようにする。
	グループのくふうをいかして、はっぴょう会	きをしよう。
2 感覚づくり運	いろいろな動きをしてみよう。	□ 教師から様々な動きを提示するこ
動を行う。	・動物の動きをするのは楽しいな。	とで、跳び箱を使った運動遊びにつ
	他にもいろいろな動きをしたいな。	ながるようにする。
3 グループでつ	グループでつくった場を発表しよう。	□ グループで場づくりをすること
くった場で運動	・グループで工夫した場を発表しよう。	で、誰もが夢中になって運動遊びに
遊びを行い、遊	・他のグループが考えた場でも遊んでみた	取り組むことができるようにする。
び方の発表をす	いた。	◎ グループの友達と協力して、跳び
る。	・今まで知らなかった動きも試してみたい	箱を使った運動遊びに進んで取り組
	な。	もうとしている。(様態)【学びに向
	・がんばっている友達のよいところを伝え	かう力、人間性等】
	よう。	□ グループごとに遊び方を発表し、
	・できない動きにも挑戦してみよう。	他のグループがつくった場を見て新
		しい遊び方を知ることで、更に意欲
		的に運動遊びに取り組むことができ
		るようにする。
		■ 誰もが夢中になれる場であるか配
		慮し、教師が場の工夫や関わりにつ
		いて声掛けをすることで、「する」だ
		けでなく、「みる・支える・知る」の
		視点から運動を多様に楽しませる。
		◎ グループで考えた場での遊び方を
		発表し合うことを通して、他のグル
		ープの工夫に気付くことができる。
		(様態、ワークシート)【思考力、判
		断力、表現力等】

4 学習を振り返 る。 グループ ↓ 全体

今日の学習を振り返ろう。

- ・○○さんが前よりもできる動きが増えていてよかった。
- ・みんなが楽しめるような工夫をグループ で考えることができた。
- ・今までできなかった新しい動きができるようになった。
- よかったところを友達に伝えられてうれ しかった。
- □ グループで振り返りを行うこと で、友達のよいところを伝え合う機 会を設けるようにする。
- ◎ グループ活動を通して、友達のよい動きや楽しくなるための工夫を伝えることができる。(様態、ワークシート)【思考力、判断力、表現力等】

(4) 本時の研究の視点

- 運動能力差に関係なく、誰もが夢中になって運動遊びに取り組み、友達と関わり合いながら学習する ことができているか。 【教材とつながる】【仲間とつながる】
- 自らの学びに自信をもち、それを今後の学習につなげていこうとする姿が見られたか。

【自分とつながる】